

大谷大学  
地域連携室  
事業報告書

2018



# はじめに

大谷大学で地域連携室が開設され、地域連携プロジェクトが開始された2015年に入学した学生達がこの春(2019年3月)卒業を迎えます。

プロジェクト活動一期生の学生は、先例のない中で地域へ飛び込み、試行錯誤しながらも活動に関わらせていただきました。地域の方々との関係を築き、また深める中から、学生たちは様々なことを吸収し、成長し、また先輩として後に続く学生のサポート役を務めるまでになりました。

地域連携プロジェクトへの参加を機に、学内での活動もいっそう充実させている様子を目の当たりにし、学生達の潜在的なチカラが開花したのだなど、頼もしく感じています。

地域連携プロジェクトに参加することは、このような潜在的な自分のチカラに気づき、開花させる絶好のチャンスとの出会いでもあると思います。

多様な人々との交わりが、学生たちを育てていただいたのだと実感しています。数々のご迷惑もおかけしたことは思いますが、多くの方々のご協力に感謝申し上げます。現代社会では稀有な、地域活動の中での育ち合う経験は、今後の学生達の学びと人生にとって大きな財産となるでしょう。

これからも大谷大学は地域連携プロジェクトを通じた学びを大切にしたいと考えています。地域の皆さんには引き続きのご協力を、宜しく願い申し上げます。



大谷大学  
学長 木越 康

大谷大学は今年度より新たに社会学部、教育学部を開設し、従来の文学部に加え3学部に変更しました。これにより、短期大学と合わせ、4つの研究教育の柱が確立したことになります。

地域連携室ではこれら4つの柱で進める地域連携事業のバックアップを担う、教育研究支援の役割を發揮することとなりました。

1年を終え、地域貢献、情報発信、町おこしの共同事業、文化・子育て活動の共同などプログラムの数や内容は確実に前進していると感じています。

ひとえに、温かく見守っていただいた協力機関や団体、住民の皆様のおかげと感謝しています。本報告書の発行をもってこの1年の歩みの振り返りとともに、共に歩んでいただいた皆様への心よりのお礼とさせていただきますと存じます。

今後も現実に真摯に向き合い学び真理を探究する「Be Real」を基本に、自らの役割を自覚し積極的に関わる姿勢を大切にしつつプロジェクトを進めていきたいと考えております。引き続きのご指導、よろしくお願い致します。



地域連携室  
室長 志藤 修史

## もくじ

- 地域連携室について・・・1
- 2018年度の取り組み・・・2
- 2018年度プロジェクトレポート・・・3
- 中川学区の暮らし再発見プロジェクト・・・4
- コミュニティメディアプロジェクト・・・6
- まちの居場所プロジェクト・・・8
- 学区ビジョン作成プロジェクト・・・10
- 祇園祭ごみゼロ大作戦プロジェクト・・・12
- 聞き取りを通じた多世代交流と社会調査・・・14
- 子ども・子育て支援プロジェクト・・・16

- 伝記作成プロジェクト・・・18
- 南丹市美山町平屋地区と学生との交流活動・・・19
- 京都府北部福祉フィールドワーク・・・20
- 駅ナカアート・・・21
- 若者の地域活動参加促進プロジェクト・・・22
- 学まち連携大学促進事業・・・23
- バブリシティ実績報告・・・24
- 情報発信の取り組み・・・25
- 問合せ先・・・25

# 地域連携室について

大谷大学では、地域連携・フィールドワークの取り組みを強化し、「学生が地域と接点を持ち、地域での活動への積極的な参加を通じて学習し成長」する能動的学習(アクティブラーニング)をコンセプトとした学びの充実を目指し、2015年度に、実際に地域での活動を通じて、地域社会の課題について調べ、地域や各機関の皆さんとともに考え、アクションを起こしていく活動、「プロジェクト」をサポートする拠点として「コミュ・ラボ」を開設しました。

主に「地域連携プロジェクト」の企画・実施をサポートすること、「地域連携プロジェクト」間の交流を推進すること、プロジェクトの成果を学内外に発信することを業務としています。地域と大学の相互交流の窓口となりつつ、大学教員や学生がその立場ならではの地域貢献をするなかで、学びを深めていけるようサポートしています。

## 年次事業報告書のご紹介



【2015年度 2016年5月発行】



【2016年度 2017年7月発行】



【2017年度 2017年7月発行】

地域連携室では年度毎の取り組みを事業報告書としてまとめ、発行しています。

2017年度以前の取り組みについては、これらをご参照ください。過去の年次事業報告書は、地域連携室の窓口で閲覧いただくことができます。

数に限りがございますが、ご提供することが可能です。また、地域連携室のWebサイトからPDFデータでダウンロードすることもできます。詳細は地域連携室までお尋ねください。

p.25に関連記事がございます

## 地域連携の窓口

地域の皆さまからの地域連携に関するお問合せ・ご意見・ご相談に関する窓口としてお話を伺っています。お気づきの点やご提案などございましたら、地域連携室までご連絡をお待ちしています。



p.25に関連記事がございます

# 2018年度の取組み

## (1) 京都府住宅課とソリデールに関する取組み(2018.06.15)

京都府住宅課は「京都府地域創生戦略に基づく新しい住宅施策」として、高齢者宅の空き室に低廉な負担で若者が同居・交流する次世代下宿「京都ソリデール」事業を推進しています。

2017年度に引き続き、大谷大学では、京都ソリデールの普及と活用を目指し、京都府住宅課と「高齢者と若者の縁ある住まい方フォーラム」を共催しました。

また、大谷大学の学園祭「紫明祭」では「京都ソリデール」をPRするためにブース出展を行い、健康マージャンも開催されました。

経済的な理由で京都での下宿をあきらめていた学生たちに、京都で暮らしながら学べる可能性を知ってもらう機会となりました。



p.24に関連記事がございます

## (2) 地域連携プロジェクト報告会の開催(2018.10.31)



発表する学生も、発表を聞いている学生、教員もみんな真剣。  
他のプロジェクトのメンバーとの交流は相互に良い刺激を受けました。



地域連携プロジェクトに参加する学生同士の交流と研鑽を目的に地域連携プロジェクトの報告会を開催しています。

自分たちが取り組む活動を他者に伝えること、また、他者の活動を知り、自分たちの活動を振り返る経験が学生たちの成長につながっています。

## (3) Radio mix KYOTO交流会開催&公開生放送の実施協力(2018.11.22)



コミュニティメディアプロジェクトにて取り組んでいるラジオ番組「大谷大学ハッピーアワー!」の制作・放送でお世話になっているRadio mix KYOTOでは、毎年放送局や番組関係者、地域でご支援くださっている皆さんとの交流会を開催されています。2018年はこの交流会を大谷大学で開催しました。

交流会開催に合わせて、「大谷大学ハッピーアワー!」も交流会会場から生放送となりました。ゲストに門川京都市長、木越大谷大学学長をはじめ、会場から飛び込み出演もあるなど、非常に賑やかな交流会&生放送となりました。

p.6, p.24に関連記事がございます

## (4) 地域連携プロジェクト活動紹介掲示板の設置(2018.11.27~12.21)

「プロジェクトの活動の様子を恒常的に紹介できる場所があるといいな」という提案を受け、新たに「地域連携プロジェクト活動紹介掲示板」を設置しました。この掲示板では、日頃の地域連携事業の中で制作される壁新聞や学外でのポスターセッションで使用した資料などを随時発信していきます。

「地域連携プロジェクト活動紹介掲示板」は地域連携室がある響流館1階北側入口入ってすぐに設置しています。お近くに立ち寄られた際はぜひ、ご覧ください。








# 2018年度 プロジェクトレポート

## 凡例

- 主な活動場所
- 2018年度の活動期間
- 科目名(正課の場合のみ)
- 指導教員
- 参加学生について

参加者のコメントにある学生の学年は、2019年3月現在のものです。

# 中川学区の暮らし再発見プロジェクト

-  京都市北区中川学区
-  2018年4月～2019年3月
-  文学部社会学科地域政策学コース専門科目
-  志藤修史・野村実
-  文学部社会学科 2年生9人、3年生2人、4年生4人



## プロジェクト概要

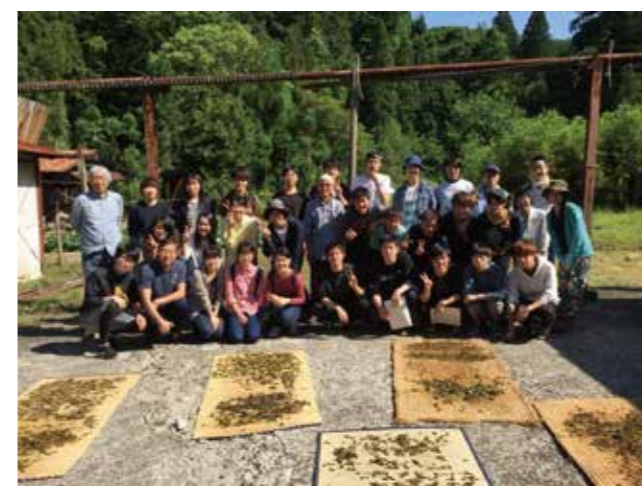
本プロジェクトは、2015年度から中川社会福祉協議会との連携事業として、「北区民まちづくり提案支援事業」の助成を受けて実施しています。「地域の人々が日々の暮らしの中で感じている困りごとは何だろう?」、「暮らしの不安を少しでも解消、解決できる方法はないのだろうか?」という社協のみなさんの地域への思いが、中川学区での暮らしの実態調査を始めることになったきっかけでした。

中川学区は京都市北部の山間地域に位置し、中川・杉阪・真弓という3つの地区から成り立っています。高齢化率は40%を超え、最寄りの病院やスーパーまでは車で20分以上かかります。公共交通機関であるバスは1時間に1本程度しか走っていません。

このように、一見すると「暮らしていくのは大変そう…」ととらえがちですが、決して大変なだけではなく、そこには、かけがえのない地域の人たちの思いや、これまで作りあげてきた歴史や文化、暮らしがあります。

本学では、このプロジェクトを通して、地域に暮らす人々の思いを大切に、地域の抱えている課題や、地域のこれからのことを共に考えていきたいと思っています。

山間の地域での暮らしのお話は初めて聞くことも多く、驚くこともたくさんあります。何度も地域を訪ね、お話を伺い、さまざまな活動を共有する中で、暮らしを知り、そしてともに考えるという経験につながっていると感じています。



## 活動内容と成果

2015年度から始まった本プロジェクトでは、地域の人たちとの交流活動や、暮らしの実態調査を実施してきました。

2018年度は、中川地区の地域の方との交流を目的としたサロン「and House.」の企画・運営、伝統的な祭事である「お火焚き」や地域の清掃活動、学区の夏祭りに参加しました。

また、中川で飲用されてきた昔ながらのお茶の栽培、お茶づくりなどに取り組みました。今年度は学生が活動時に移した中川の写真を「中川写真展」として学内で掲示するなど、中川を知ってもらおう催しを開催しました。

地域のみなさんからは様々な場面で、地域の歴史や文化、仕事や暮らしについてお話を伺い、交流を深めたりしています。何気ない会話の中にある地域への思い、暮らしの中の困りごとにしつかりと耳を傾ける活動でありたいと考え、日々の活動に取り組んでいます。

活動の様子は「中川学区の暮らし再発見プロジェクト活動記録集Vol.4」として冊子にまとめています。閲覧を希望される方は、地域連携室までお問い合わせください。

## 参加者コメント

中川での大谷大学の学生の活動も4年が経過し、かなり認知してもらえ、住民の方々からも受け入れてもらえているように感じます。

しかし、それで終わるのではなくもう一歩踏み込んだ地域課題を捉えられるように学びの場としての活動にもしていきたいと思っています。



来田村 遼太郎  
文学部社会学科3年生



梁川裕太  
文学部社会学科2年生

地域の方が温かく迎えてくれたり、サロンに参加してくださるのは上回生の方が調査や活動を行なってくださっているからだと感じました。

何回もサロンをしていくうちに地域の方に顔を覚えてもらうことができ、とても嬉しく思っています。

# コミュニティ メディア プロジェクト

## プロジェクト概要

地域政策学コース2、3年生の合同の演習として、大学のある北区北大路エリアの情報発信をテーマとしたプロジェクトを行いました。

北大路エリアは、京都市内中心部の京都駅や烏丸、河原町エリアに比べてタウン情報誌などのメディア掲載もありません。また北区には上賀茂神社、金閣寺などもあり周辺地域の情報は旅行雑誌などでも取り上げられていますが、北大路駅周辺は掲載が少ないというのが現状です。

こうしたなか、学生が地域に密着した情報を取材し、発信に取り組むのがこのプロジェクトです。メインの対象層は、この地域で暮らす、働く、学ぶ若い世代です。


この地域での生活歴が少なく、地域の情報を求めている層にインターネット等を通じて情報を届け、人やお店とのつながりづくりを促します。

 京都市北区北大路エリア

 2018年4月～2019年3月

 文学部社会学科地域政策学コース専門科目

 赤澤清孝

 文学部社会学科 2年生27人、3年生15人

2016年からはコミュニティラジオ局にて毎週1回の50分番組を放送。2018年も継続して取り組んでいます。

また、2017年8月に開設した地域情報サイト「キタキタ!」も継続して制作。この他、情報誌「キタキタ!」の第2号も制作しています。

これらの取り組みを通じて、学生が地域に埋もれていた面白いお店やイベント情報を知ること、地域の人の暮らしや仕事の面白さ、大変さなどを知ること、また、パソコンを使っての情報発信スキルや、対人コミュニケーションのスキル向上を図ることを目指しています。



## 活動内容と成果

ラジオ番組「大谷大学ハッピーアワー!」を毎週木曜日19時に放送。約50回放送し、地域の商店主やNPOスタッフなど多数の方にゲストとして登場いただきました。

10月には、大学食堂にて公開生放送も実施。門川京都市長、ラジオ局の大島理事、本学の木越学長によるゲストトークも行いました。

また、地域情報サイト「キタキタ!」では、「地域のニュース」「イベント情報」「グルメ」「ショッピング」「お出かけスポット」「まちづくり」などをテーマにまちに出て取材を行い、情報を発信。約40件の記事を発信しました。

情報誌「キタキタ!」では、「すやかな暮らしを支える仕事」と題して、子育て支援や健康を気づかった飲食店など、7組へのインタビュー。北区での仕事や暮らしを紹介しました。

また、古くからの地域の魅力を紹介するコーナーとして、鳳徳学区、待鳳学区の和菓子店を紹介しました。

これらの取り組みを通じ、学生たちと、地域の面白い若者、大人とのつながりが生まれた他、地域の人たちの様々な生き方、働き方に刺激を受けています。

また、学生たちは、番組や情報誌づくりなどに必要な企画力、チーム運営に必要なマネジメント能力を身に付け、ラジオ放送や取材を円滑に進める会話力(コミュニケーション能力)も身につけることができました。

## 参加者コメント

ラジオで主にパーソナリティを務めました。ゲストの方とトークをして、活動に対しての想いやこだわりなど、様々な話を聞くことができました。

これからも、ラジオをお聴きの方により分かりやすいように伝えていきたいです。



尼出穂高  
文学部社会学科2年生



中村通里  
文学部社会学科3年生

情報誌、ウェブサイトづくりでは、地域コミュニティに向いて、取材し、それを自分の言葉で表現する楽しさを学ぶことができました。

また、たくさんの人と話すことで、視野を広がりも得ることができ、貴重な機会になりました。

# まちの居場所プロジェクト

📍 京都市北区

📅 2018年4月～2019年3月

👤 文学部社会学科地域政策学コース専門科目

👤 大原ゆい・西村雄郎

👥 文学部社会学科 2年生9人、3年生3人



## プロジェクト概要

まちの居場所づくりは2018年度からスタートした新規プロジェクトです。北区待鳳学区にある福祉施設「地域密着型総合ケアセンターきたおおじ サテライトうえの」の皆さんと協働しながら、地域の居場所づくりを進めています。

高齢社会といわれる今、地域において高齢者のひとり暮らし、老々世帯が今後ますます増加すると予測されます。高齢になっても住みなれた自宅、あるいは地域で暮らし続けるためには、保健、医療、介護のサービスだけではなく「居場所」や「つながり」の活動が必要となるのではないかと考えます。そしてこれは高齢者に限ったことではなく、子どもも大人も、障害のある人も、ない人も、地域に暮らすすべての人にとって「あったらいいな」と言える場所・活動なのではないでしょうか。

そこで、このプロジェクトでは、待鳳学区を中心に、住民団体や地域を支える専門機関、大学とが連携をして、学区で暮らす誰もが参加できる「場」と「活動」をつくり、地域やまちづくりに貢献することを目指しています。

この活動を通じて、地域で今後さらに大切となると考えられる「人と人とのつながり」や、さまざまな立場におかれた人の「居場所」の今日的なあり方について実践を通じて考えていきたいと思っています。



## 活動内容と成果

地域に暮らす誰もが気軽に集える居場所づくりを目指しています。

今年度は、初年度ということもあり、大学周辺で居場所づくりの実践に携わっておられる事業所の方、地域活動に取り組む方々を訪問し、その活動を見学させていただくとともに、実践に取り組む思い、地域への思いについてお話を伺いました。

また、「サテライトうえの」において、年4回のサロン活動を企画・実施しました。サロンを催すにあたっては、「どのような企画をすれば多くの世代の方に楽しんでもらえるだろうか?」また、「開所したばかり(2018年4月開所)のサテライトうえのを地域の皆さんに知ってもらうためにはなにが必要になるのだろうか?」「効果的な広報の方法とはどういったものなんだろうか?」など、初挑戦のことばかりで試行錯誤の連続でもありました。

サロン活動は、回数を重ねるごとに、少しずつではありますが参加者数も増え、「次はいつあるの?」「今後はみんなで美味しいものを作るイベントをやりたいわ」などお声がけいただくことも多々ありました。

参加学生らにとっては、関わってくださる地域の方、施設の方との関係や企画を1から自分たちの力で作る大変チャレンジングな1年でもありました。

## 参加者コメント

サロン活動では一から企画する難しさや、高齢者の方々とのように関わるかなど思い悩む面が沢山ありました。

しかし、年齢関係なく一緒にサロンを行うことで、自然と笑い声が響き、楽しい場となりました。

来年度は、必要とされる居場所を地域の方々と共に探していきたいです。



小寺 結  
文学部社会学科2年生








田中 隼人  
文学部社会学科3年生

サテライトうえのでは計4回のサロンの企画運営をしてきました。

幅広い世代に来てもらうことは容易ではありませんでしたが、大鳳学区の石田会長と地域交流の場「タマリバ」での話を思い出し、来年度も居場所作りについて考え、取り組んでいきたいです。

# 学区ビジョン作成プロジェクト

-  京都市北区紫明学区
-  2018年4月～2019年3月
-  文学部社会学科地域政策学コース専門科目
-  大原ゆい・志藤修史・西村雄郎・野村実
-  文学部社会学科 2年生9人、3年生3人



## プロジェクト概要

「学区まちづくりビジョン」は、北区制定60周年の2015年に策定された北区基本計画「北区民つながるプログラム」において、2020年をめどに北区内全18学区で策定を目指すとして掲げられたものです。

ここでは、住民と大学が連携・協働しながら、学区の将来像を住民自らが主体的に考え、みんなで議論しまとめていくプロセスが重視されています。本学では、教員の専門的知識や技能と学生の積極的な参加意欲を活かしてビジョンづくりに関わっています。

本プロジェクトに参加した社会学科、コミュニティデザイン学科の学生は、ワークショップのファシリテーション(進行)、記録、発表、ワークショップの様子をまとめたニュースレターの原稿作成などに取り組んできました。

参加住民の皆さんの学区への思いを引き出しつつ、現状の課題、これからの学区の未来についてじっくりと語りあいました。

グループでの話し合いや意見をまとめて発表する場面では、うまくいかないこともありましたが、そんなときには、学生同士や同じグループの住民からフォローが入ったり、参加者が立場をこえて協働して取り組む様子があちこちで生まれていました。とくに、過年度に他学区でのビジョン作成プロジェクトに関わった経験を持つ学生は、その経験を初めて参加する学生に伝えたり、グループのリーダー的役割を担うなど、学生同士の学び合いの場にもなっていました。



## 活動内容と成果

2016年度の紫竹学区、2017年度の鳳徳学区に引き続き、2018年度は紫明学区のビジョンづくりに参加しました。

学区メンバー、区役所スタッフ、学生、教員とコアスタッフ会議を重ねながら、ワークショップを開催しました。全3回のワークショップには、毎回40名を超える地域の方にお集まりいただき、和気あいあいとした中で、これからの地域のことについて話し合う時間が持たれました。

特に今年度は、大学のある紫明学区でのビジョン作成ということもあり、大学のことをもっと地域

の皆さんに知ってもらいたい、大学と学区が一緒になにができるだろう、ということより強く意識しながらプロジェクトに関わることができました。

ビジョン作成というプロジェクトはここでひとつの区切りとなりますが、地域のみなさんとのご縁を大切にしながら、まちづくりビジョンに描かれた紫明学区の将来像を実現していくための活動にこれからも参加していきたいと考えています。

完成版の「紫明学区まちづくりビジョン」は、京都市北区の窓口で配布されているほか、Webサイトからもダウンロードしてることができます。

策定された学区ビジョンについてのお問い合わせ  
北区地域力推進室企画担当  
Tel:075-432-1199



ダウンロードはこちら

## 参加者コメント

紫明学区ビジョンでは私にとっては初めてのワークショップでした。ワークショップでは学区の方々の方が街をより良くしたいと言う声や地域の活性化、住民同士の繋がりが良いところも悪いところも双方の主張を尊重しておられました。

それだけ、紫明学区の魅力が溢れており地域活性に向けての気持ちが熱く感じました。今後とも私達はイベントなどに参加しつつ美しい紫明学区を応援していきたいです。



河原健太  
文学部社会学科3年生

紫明学区にはお寺や神社が多く、昔ながらの商店街などもあり、すごく魅力的な地域だと感じました。

また、サロンでは地域の高齢者の方からお話を聞き学区の歴史について学ぶことが出来ました。

また機会があれば学区の行事などに参加したいなと思います。




九野雄志  
文学部社会学科3年生


# 祇園祭 ごみゼロ大作戦 プロジェクト

 京都市中京区、下京区(祇園祭山鉾町)

 2018年4月～7月

 文学部全学科共通選択科目(必修)人間学II  
短期大学部全学科共通選択科目(必修)仏教と人間II

 赤澤清孝

 人間学II受講者69人、ボランティア63人  
文学部 1年生9人、2年生70人、3年生28人、4年生7人  
社会学部1年生9人、教育学部1年生1人

## プロジェクト概要

世界有数の伝統祭事である祇園祭。祭の山場となる山鉾巡行前の宵山行事期間中は、多くの夜店・屋台が四条烏丸を中心に広範囲で立ち並び、国内外から多くの来場者が訪れます。しかし、来場者数に比例して課題となるのが、紙やプラスチック容器などの廃棄物でした。以前に比べ散乱ごみなどは減ったものの、可燃ごみの量は増える一方でした。

そこで2014年、NPO、行政、夜店や屋台、ごみ収集事業者などの協力のもと、使い捨て食器を、繰り返し洗って使用可能なリユース食器に切り替える「祇園祭ごみゼロ大作戦」の活動が始まりました。

この活動には、のべ2000人の市民がボランティアとして活動を支援しています。

大谷大学では、2015年より祇園祭ごみゼロ大作戦の活動に協賛し、また、全学を挙げてこの活動に参加しています。参加は正課授業を受講し、その一環として参加、ボランティアとしての参加の2つの形態があります。授業では、祇園祭の歴史、ごみ問題、環境問題に関わる市民活動の実例など、多様な視点から「祇園祭ごみゼロ大作戦」の背景やこれまでの成果について学び、その上で宵山・宵山当日の活動に参加し、リユース食器の回収やごみの分別を促しました。活動後は、その経験をレポートにまとめることで環境問題や、環境問題の解決に向けて取り組む市民活動への理解を広げるとともに、主催団体に活動の課題や改善点を提案し、次年度以降の活動につなげてもらうようフィードバックしました。



## 活動内容と成果

全学共通科目の人間学IIの受講者は69人。今年も様々な学科から多くの学生が受講しました。また、ボランティアも含めた学生の総参加者数は132人で、そのうち7人は、活動の中心的な役割を果たすリーダー役を務めました。

当日は、学年・学科の異なる学生のほか、他大学の学生や社会人、高校生などと一緒に活動に参加。鉾町にお住まいの方や観光客からの感謝や励ましの声も多数いただきました。

また、今年度も昨年度に続き、袖口に大谷大学の名称とロゴがプリントされたボランティアTシャツを着用。集合場所や、担当のエコステーションにおいて自然と相互に声かけや自己紹介が始まり、チームワークよく活動できました。

この他、例年、夜間に活動するボランティアが少なく運営に困難をきたすことから、今年度も17時から24時の時間帯を中心に参加を募りました。その結果、遅い時間帯の運営に大きな貢献ができました。

こうした体験を経て、学生たちは、様々な立場の人たちがひとつの目的に向けて協力し、実行することの意義を実感しています。



## 参加者コメント

大量のごみを見て、今まで祇園祭の綺麗な部分しか見えていなかったのだと痛感しました。

ごみを捨てる人がいれば、それを処理する人が必ずいます。みなさんにも活動を通じて、そのことを体感してほしいです。



堀川なつみ  
文学部文学科2年生



中西俊颯  
文学部  
教育・心理学科3年生

今まで私は、ごみ分別や落ちているごみを拾うことはありませんでした。しかし、ごみゼロの活動を通して、普段からごみの分別を意識するようになりました。また、目標達成のためには、周りの協力が大切だと学びました。



# 聞き取りを通じた 多世代交流と 社会調査プロジェクト

## プロジェクト概要

前期は、京都市左京東部・西部いきいき市民活動センターの「聞き取りを通じた多世代交流による地域活性化」事業に、「社会調査実習」履修学生全員が参加しました。

同事業は、①地域の高齢者を訪ねて、思い出を語ってもらうことで、語り手に元気になってもらうこと、②高齢者の記憶を冊子と写真展を通じて地域資産として共有することを目的としています。本年度は盆踊りの思い出を聞き取り、冊子「わたしの盆踊り」を刊行し、「わたしの盆踊り：エピソード写真展」を開催しました。

「社会調査実習I・II」の授業では、こうした活動に参加することを通じて、学生が地域の人々や市民活動団体の人々と交わり、地域社会および市民活動それぞれの現状・課題・可能性について関心を持つこと、調査に必要な信頼関係を築くこと、調査スキルの応用力・実践力を身に



京都市左京区



2018年4月～2019年3月



文学部社会学科現代社会学コース  
社会調査実習I・II



高井康弘・野村明宏・徳田 剛・渡邊拓也  
古谷伸子・阿部友香



文学部社会学科 3年生4人

付けることをねらっています。

後期は、授業で独自の社会学的フィールドワークを実践する中で、学生が一段高いレベルの社会調査のスキル・倫理を、総合的に身に付けることを目標にしていますが、本年度は盆踊り復活の担い手に焦点を当てた調査を企画し、上記センターのサポートを得つつ、学生が聞き取り、テープ起こし、社会調査実習報告書「盆踊りと人のつながり」作成に取り組みました。



## 活動内容と成果

4月は上記センター・スタッフとともに、コミュニケーション・トレーニングを経験しました。5月は江州音頭の音頭取りの志賀國天寿氏による盆踊りと江州音頭について講演を聴き、今回のテーマに関わる基本的知識を共有しました。

6月は地域の高齢者の方々の話を聞き取り、テープ起こし、文章作りをおこないました。7月から8月は、写真展開催、盆踊り練習会、盆踊り大会本番に参加しました。

9月から10月は、調査企画の共有と質問案作成をおこない、10月から11月にかけて聞き取り調査をおこない、以降、テープ起こし、文章化など、報告書刊行に向けての諸作業をおこないました。



## 参加者コメント

子供の頃、地元の夏祭りで盆踊りを踊っていました。自分の経験が生きてほしい、お話を聞くのが楽しみでした。



杉本隼也  
文学部社会学科3年生

前期は京都と違う出身の方のお話を聞き、江州音頭と違う盆踊りがあることに驚きました。最も印象深かったのは盆踊りの練習会です。普段の生活では感じるこたないほどの力強さや活力を肌で感じました。

高齢化が進む地域でこれほどの力強さを感じることは正直考えていませんでした。

本年度は履修学生が少なく、その分、各人の負担は大きかったのですが、学生は意欲的に取り組み、質の高い報告書に仕上がりました。

聞き取りの際の質問作り、聞き取り中のメモ取り、テープ起こし、文章化、考察といった各段階の作業を実践する中で、コツをつかみ、自信も得て、前向きに力強く取り組むことができるようになったと感じています。

しんどいながらも、面白さを感じ、達成感があったと語ってくれました。次年度も引き続き、同プロジェクトに取り組む予定です。



今枝美月  
文学部社会学科3年生

はじめての聞き取りはとても緊張しました。盆踊りについて知らないことばかりで戸惑いましたが、先生方に助けていただきました。

文字起こしは時間のかかる作業で大変でしたが、この経験を通して私自身得たものがあつたと思いますし、成長できたと実感しています。

# 子ども・子育て支援プロジェクト

## プロジェクト概要

自然豊かな北区は、子育て世帯もたくさん暮らす住宅街という側面があります。京都市及び北区の子育て政策として、子育て中の保護者の不安や疑問を解消し、地域で孤立しないよう、地域の人たちとの仲間づくりや交流活動が推進されています。


このような状況を踏まえ、大谷大学・大谷大学短期大学部では、将来幼稚園教諭や保育士など、幼児教育を目指す学生達の実践的な学びと地域貢献を両立した試みとして、子ども・子育てプロジェクトに取り組んでいます。

具体的な活動としては、


(1)京都市の子育て支援事業である「いないいないばあ教室」を京都市子育て支援事業の北区の拠点園・楽只保育所と共同で年12回実施



掲載写真は2018年度以前のものを含みます

 大谷大学、京都市立楽只保育所ほか

 2018年4月～2019年3月

 大谷大学短期大学部幼児教育保育科  
専門科目 仏教保育演習、保育相談支援

 富岡量秀、小川晴美

 大谷大学短期大学部幼児教育保育科 2年生73人

(2)北区の「地域子育て支援ステーション(\*)」である「紫明幼稚園」「楽只保育園」と連携し子育て相談や子育て講座・園庭開放等々に取り組む「あかちゃんにこちゃんサロン」「赤ちゃんの『いないいないばあ』教室」の実施  
(3)近隣の保育園、幼稚園と連携し、日常の学外活動の場として大谷大学の施設を活用、園児たちの遊び体験を学生たちがサポートする「近隣保育施設との連携事業」以上、3事業に取り組んでいます。

(\*)地域子育て支援ステーションとは…京都市の施策の一環で、身近な地域における子育て支援のネットワークの拠点として、京都市内のすべての保育園(所)、認定こども園及び児童館が「地域子育て支援ステーション」に指定されています。北区では、紫明幼稚園や楽只保育所などもこの「地域子育て支援ステーション」に指定されており、大谷大学はこちらの2園と連携して、子育て相談や子育て講座、園庭開放などを「あかちゃんにこちゃんサロン」「赤ちゃんのいないいないばあ教室」として開催しています。

## 活動内容と成果

本プロジェクトへの参加を通して、参加者である保護者や乳幼児のサポートをしています。プロジェクト全体を通して、乳幼児や保護者のニーズや、地域として子育てを支援する関連機関との具体的な関わりなどを学ぶことにより、より実践的かつ広い視野で子どもたちとその保護者をケアできる人物の育成につながっています。



また、保育者としての「子育て支援力」の育ちを目指しており、各事業や毎回の「ねらいと内容」を意識し、それぞれの「保護者に対応した支援とは？」を考え、関わり方を考え実践したことにより、保育者としての実践力と同時に、保育者マインドの育ちの形成に繋がっています。

加えて、「赤ちゃんのいないいないばあ教室」では、各回終了後に学生による手作りの「壁新聞」の制作に取り組んでおり、手作りのあたたかさや、学生自身と子どもとの関わりの姿を保護者に伝え、保護者からは大変好評を得ています。

この経験から学生自身も「手作り」が、保護者の心を和ませることや、就職後の実践の場での「園だより」や「子どもの姿」を保護者へ伝える有効なものであることを実感し、そのスキルの向上の意義を確かめられたと考えます。

## 参加者コメント

エンディングで「周りを見てください。この地域ではこれだけの人が支援してくれたり、助けてくれる人がいます。」という言葉が一番印象に残っています。子育ては一人でするものではなく、みんなでするものだというのを改めて感じました。

そして次からは、自分も支援する側に仲間入りするんだという気持ちになれました。子育て支援は、就職する前に一回は経験しておくべきだと後輩に伝えたいです。



池見純菜  
大谷大学短期大学部  
幼児教育保育科2年生



2018年度からは、乳幼児とその保護者を対象とした活動の一部の開催日を土曜日に変更しています。

これは、働きながら子育てに取り組む保護者にも参加しやすい機会とするための工夫です。授業や実習が多いため、スケジュール調整は容易ではありませんが、事業趣旨に則り、関係各所とも協力しあって達成することができました。

## 年間活動記録

赤ちゃんのいないいないばあ教室  
…5/28開始全6回、10/22開始全6回実施

あかちゃんにこちゃんサロン…8/10  
2019年3/6開催

北っ子つながりフェスタ…10/20開催

近隣保育施設の日常学外活動受入れ  
…5月、6月、7月 各月1回実施

普段の授業では分からない子どもたちの姿や、保護者の皆さんのお話を聞くことができました。






地域ごとの取り組みで子どもの名前の由来を聞き、本当にそれぞれに意味が詰まっていることを改めて実感しました。

保護者の方々が子どもたちをどれだけ大事にして愛しているかを感じることができました。



大井優李  
大谷大学短期大学部  
幼児教育保育科2年生

# 伝記作成 プロジェクト

-  京都市北区
-  2018年4月～7月
-  社会学部コミュニティデザイン学科  
プロジェクト研究入門I・コミュニティデザイン演習I
-  志藤修史、赤澤清孝、大原ゆい、松川鈴、鈴木寿志、  
平尾良治、中野加奈子、鎌谷勇宏、野村実
-  社会学部コミュニティデザイン学科 1年生102名

## プロジェクト概要

本プロジェクトは、フィールドワークの一手法であるインタビュー法を通じて、活動エリア、人の生活する動的エリアとしての「地域」を時間軸と空間軸の両面から理解し、記録し、まとめることを通じて、地域アプローチの手法の実際とインタビュー、記録、グループでのまとめ、アウトプットについて学ぶものです。

コミュニティデザイン学科は、1年生後期より、地域活性化、情報、社会福祉の3つのテーマの演習クラスに分かれて、専門分野の学習を進めていきますが、いずれのコースにおいても、フィールドに出て、地域の住民のニーズの聞き取りや、成果のフィードバックは書かせません。このプロジェクトでは、その基礎的な力を身につけるために取り組んでいます。



## 参加者コメント

入学して出会ったばかりの仲間たちとのグループ活動は、難しかったです。インタビューではうまく進行できないこともありましたが、インタビューを受けてくれた方が、たくさん話題を自ら提供してくださったり、逆に僕たちへ質問してくださったり、お話の内容も人との接し方も勉強になることばかりでした。

今回の経験を活かして、より深く話題を展開していけるようなインタビューができるようになりたいです。



大仲健太 上原綾人  
社会学部コミュニティデザイン学科1年生

## 活動内容と成果






2018年度は、社会学部コミュニティデザイン学科の1回生102名が参加しました。京都市北区役所、学区社会福祉協議会、高齢者福祉事業所、保育園、障害者福祉事業所、PTA、寺社、NPOなどの合計24人の方にインタビューにご協力をいただきました。

学生は、4～5人一組のグループとなり、インタビュー先にアポイントをとる、インタビューの質問内容を考える、インタビューを行い、記録をとる、記録をもとにストーリー（構成）を考える、追加のインタビューを行う、分担して文章をまとめる、校正作業と製本作業を行う、というプロセスを経て、伝記を完成させました。完成後は、インタビュー先の方に手渡しし、感想と謝意を伝えました。



一冊ずつ  
和綴りで  
製本しました。

# 南丹市美山町 平屋地区と 学生との交流活動

-  京都府南丹市美山町平屋地区
-  2018年10月5日～7日
-  文学部社会学部地域政策学コース専門科目  
社会学部コミュニティデザイン学科専門科目
-  志藤修史・大原ゆい・赤澤清孝・鈴木寿志・野村実
-  文学部社会学部 3年生8人(任意参加3人含む)、4年生4人  
社会学部コミュニティデザイン学科 1年生42人  
留学研究生 1人

## プロジェクト概要

過疎高齢化の進む美山町の生活実態と課題および住民活動を学ぶ、そしてグループ活動を通じて学習研究を深めるということを目的に、平屋地区地域福祉推進協議会、南丹市社会福祉協議会の皆様と共にプロジェクトに取り組んでいます。学生による高齢者宅等への訪問活動や、地元住民との食育を通じた交流事業、地域の環境資源の把握と地域づくり、平屋地区の高齢者との交流を目的とした「ふれあいカフェ」の実施など、プロジェクト内でも複数のテーマに分かれて活動を行っています。

これまでの平屋地区における活動では、ふれあいカフェの実施に際して学生有志による「音楽隊」を結成し、一緒に歌って楽しめる音楽を披露しながら楽しい時間を共有しました。そのほかにも、暮らしの困りごと調査を通じて地域の皆さんから草刈りや雪かき、農作業などの頼みごとや、将来への不安や日頃の話し相手が少ないことを伺い、それぞれのお宅へ訪問して交流や生活のお手伝いを行いました。

本プロジェクトは、京都府「1まち1キャンパス事業」の助成を受けて実施しました。

## 活動内容と成果

2018年度は2泊3日の宿泊型プロジェクトとして実施し、①住民との交流事業、②町おこし活動体験、③移動手段などの困りごとに関する聞き取り調査、④エコツーリズムの現状、⑤郷土文化に触れる食育プロジェクト、⑥ふれあいカフェ(平屋地区合同サロン)という6つのテーマで、地元住民の方々のご協力を得ながら、学生が活動を行いました。

訪問活動では、主に一人暮らしの高齢者のお宅を訪問し、普段は隣近所に頼みづらい草引きや重い荷物を運ぶなどのお手伝いをしました。手伝いだけでなく、日常生活でどのような困りごとや悩みごとがあるのかについてお話を伺ったり、芋掘り体験をさせていただきながら平屋地区の歴史や地域課題について話していただきました。

聞き取り調査では、平屋地区の移動手段に関するアンケートの結果をもとに、買い物や通院などのサービスアクセスの課題について、学生がお話を聞きに住民のご自宅を伺いました。

その結果、生活する上での困りごととして、近所に頼れる人がいない、専門的な治療を受けられる病院がない、自動車を運転できなくなった場合が不安であるといった意見が得られました。こうした聞き取り調査とアンケートの結果を分析し、地域福祉推進協議会や社会福祉協議会の皆さんにフィードバックを行いました。



## 参加者コメント

地域の方々の生の声を聞くことができ、「美山が本当に好きなんだ」と改めて感じました。

地域について学ぶことで、地域の魅力や地域の方々の困りごとなどを知ることが大切だと勉強することができ、貴重な経験になりました。



岩津 佳苗  
文学部社会学部3年生



藤木 ちひろ  
社会学部  
コミュニティデザイン学科1年生

美山の方々と郷土料理と一緒に作ったことで、文化を学べるだけでなく美山の方々の知恵や暖かさ、優しさを実感できる良い経験になりました。

また、サロンでは学生だけで演奏することやサロンの構成、選曲など先輩方からもたくさん学び貴重な経験ができました。

# 京都府北部福祉 フィールドワーク

## プロジェクト概要

京都府北部地域で多様な地域実践を展開している自治体(宮津・舞鶴・綾部)で、地域資源を活用したまちづくり(宮津)及び地域を基盤としたソーシャルワークの実践(舞鶴・綾部)を学ぶことを目的としたフィールドワークです。

地域資源を活かしたまちづくり(宮津)では、社会福祉法人成相山青嵐荘を拠点として、行政機関・ケアカフェ・NPOなどを視察しました。

宮津市は高齢化・過疎化といった地域問題に直面しながらも、多様な自然を資源や住民同士の繋がりなど地域特性を活かしつつ、地域住民・社会福祉法人・行政機関などが連携したまちづくりを展開しています。宮津市の特性を活かしたまちづくりの手法を、その担い手へのインタビューや交流を通して具体的に学びました。

ソーシャルワーク実践のフィールドワークは、舞鶴市・綾部市で行ないました。舞鶴市では、社会福祉法人大樹会を拠点に、利用者・家族との交流、社会福祉専門職・地域住民・行政などのヒアリングや現場体験を行ないました。






その体験を通して、ミクロ・メゾ・マクロレベルの実践スキルを習得しました。特に授業で学ぶ理論と実践の関係性や、京都市内や他の自治体での実践との比較を通し、地域を基盤としたソーシャルワークの有り様を学びました。

綾部市では、いこいの村を拠点に、聴覚障害者との交流や施設のソーシャルワーカーへのインタビューを行ない、多様なサービスの実践を学びました。

## 活動内容と成果

地域資源を活用したまちづくり(宮津)には、地域政策学コースの学生が参加しました。台風の影響で一部スケジュールが変更になった場面もありました。しかし、困難な中でも生き生きと地域の特性を活かしながら、多様な人々が繋がり合い豊かなまちづくりが実践されていることを学びました。また、普段の授業では接する機会のない社会福祉サービス利用者とも交流をし、地域住民の多様性を知り、弱い立場に置かれた人も含めたまちづくりの視点を得ることにつながりました。

ソーシャルワーク実践(舞鶴・綾部)では、舞鶴市については昨年度から継続して参加した学生(3年生)は昨年度の視察や社会福祉援助技術現場実習を踏まえながら、専門性を活かしたソーシャルワーカーたちとの交流を深め、

-  京都府宮津市、舞鶴市、綾部市
-  宮津・舞鶴 2018年8月8日(水)～8月10日(金)  
綾部 2018年8月28日(火)～8月30日(木)
-  有志による課外活動として実施
-  大原ゆい・中野加奈子
-  宮津:文学部社会科学 2年生1人、3年生2人  
舞鶴:社会学部コミュニティデザイン学科 1年生5人  
文学部社会科学 2年生1人、3年生2人  
綾部:文学部社会科学 2年生1人

自らの問題関心に沿ってソーシャルワーカーのロールモデルを描くことにつながりました。初めて参加した1・2年生は、京都市内や自分の暮らす自治体との違いを知り、地域を基盤としたソーシャルワークについてイメージを深めることができました。また、綾部でのフィールドワークについては、聴覚障害者の地域生活支援について、聴覚障害者当事者の生活史の聞き取りや職員からの説明を受け、理解を深めることができました。



## 参加者コメント

今回、一番興味を持ったのは、サロン活動です。元々、町づくりに興味があったこともあり、住民がこうしたいと思っているものをサポートする仕事に興味を持ちました。

そして、福祉は地域に深く根付いていること、様々な視点から見るのが重要であることを何度も実感されました。



三明侑由  
社会学部  
コミュニティデザイン学科1年生



川北楓子  
文学部社会科学3年生

その地域をよく知る方にお話を聞くだけで、この地域がどんな地域か、地域の特徴がつかみやすかったです。

福祉の仕事において「人の話を聞く」ことの重要性、ただ聞くだけでは意味がない事、その人の話から色々な事を想像、想定することの重要性を再確認できました。






# 駅ナカアート 2018

## プロジェクト概要

KYOTO駅ナカアートプロジェクトは京都市内の芸術系大学が中心となり、大学生のアート作品で地下鉄駅を装飾し、地下鉄を魅力的なものとして活性化することで、活力ある京都のまちづくりをめざすもので、2013年度に開始されました。大谷大学は、大学と地域連携の一環として2016年度より参加しており、今回は二度目です。

## 活動内容と成果

2017年度の統一作品テーマは「明治150年、next innovation」で、大谷大学は鞍馬口駅構内が実施駅であったため、「灯々」というテーマで鞍馬口駅周辺地域の魅力を発掘する映像作品を制作し、鞍馬口駅構内でプロジェクトを利用して投影しました。また、本事業の活動の様子を映像にまとめた「メイキング・プロモーション映像」を

-  京都市営地下鉄・鞍馬口駅(駅での展示)
-  2017年11月17日(金)～2018年6月30日(土)
-  文学部人文情報学科  
情報表現学演習III-1、IV-1、人文情報学演習III-5、IV-5
-  松川節・倉光延行
-  文学部人文情報学科 3年生16人、4年生9人

制作しました。

2018年2月6日にプロジェクト作品構想意見交換会に参加し、プレゼンを行いつつ、参加各大学と意見交換をしました。2月10日から3月10日まで、参加各大学にてメイキング取材・撮影を実施しました。3月28日にはジョイント・ミーティングに参加し、京都駅にて作品発表と「メイキング・プロモーション映像」の上映を行いました。

3月29日～5月31日まで鞍馬口駅にて作品展示、メンテナンス、追加取材(市内各地にて撮影ロケ)を行い、5月21日にはプロジェクト反省会に参加しました。



## 参加者コメント

京都市交通局や各大学の代表と連携を取り合う難しさを実感し、自分にとって大きな経験となりました。

地域の方々の思いを映像で発信し、地域活性化に貢献できました。全体を振り返って、とてもやりがいを感じた半年間でした。



八木紫帆  
文学部人文情報学科4年生






私達が制作した映像2本が駅内のデジタルサイネージや大学内で放映されたことで、大学全体と学科のPR活動に繋がりました。

作品制作のため毎日活動し大変でしたが、沢山の方々が見てくれて感想をいただき光栄でした。



前田紗菜  
文学部人文情報学科4年生

# 若者の地域活動 参加促進 プロジェクト

-  京都市北区
-  2018年11月～2019年2月
-  大谷大学・大谷大学短期大学部
-  赤澤清孝
-  文学部社会学科 2年生4人、3年生2人

## プロジェクト概要

地域の高齢化が進む中で、地域活動へ若者の参加を促し、地域の若返りを図ること目的としています。今年度は、北区役所が主催する「北区こどものまち」の取り組みに協力しました。

「北区こどものまち」とは、子どもたち自身が、まちの仕組みや、まちにあってほしいお店を考え、実際に仮想のまちをつくりあげる、子どもが主役のイベントです。

こどものまち開催日には、実際に仕事や買い物をする中で、社会の仕組みを体感します。運営は小学3年生から中学生までの「こどもスタッフ」が担い、12月から「こども会議」を行っています。

次年度はこれらの活動の他、地域住民によるまちづくり活動、イベント(お祭り、マルシェ等)の企画、運営に活動の場を広げていきます。



手塚敏暉  
大谷大学文学部社会学科2年生

こどものまちは、子どもたちが自主性や協力の大切さなどを学ぶことができるのでうれしい場だと思います。広報活動では、こどもたちの活動の様子や声をうまくまとめるのに苦労しましたが、いい経験になりました。



坂元みゆき  
大谷大学文学部社会学科3年生

## 参加者コメント

こども会議、こどものまち本番を通して、こどもたちは自分で考え、行動を起こし、自分のやるべきことを全うできるのだとわかりました。また、とてもエネルギッシュで、行動範囲が広くて、多くの可能性に秘められていることに驚きました。

## 活動内容と成果






大谷大学の学生たちは、この「こども会議」の記録係として、当日の様子をまとめ、フェイスブック等で地域に発信するとともに、当日は、「こどものまち」の様子をライブ中継し、観覧の保護者の方にまちの様子を伝える役を担いました。

学生たちは、毎回のこども会議に参加し、こどもスタッフが「こどものまち」の開催に向けて、まちの仕組みやお店を考える様子を毎回まとめて、フェイスブックで速報する他、こどものまち新聞の原稿作成を行っています。

こども会議では、活動の様子を写真に収める他、こどもたちにインタビューを行い、アイデアや活動への想いをさらに深く聞き取ります。

こうした活動により、子どもたちの準備活動が円滑に進むとともに、保護者や地域の方たちにも子どもたちの想い、考えを伝える媒介役となっています。

# 学まち連携大学 促進事業に関する 取り組み

-  京都市北区、左京区、下京区など
-  2018年4月1日～2019年3月31日
-  大谷大学・大谷大学短期大学部
-  赤澤清孝ほか
-  大谷大学文学部全学科  
大谷大学短期大学部 幼児教育保育科

## 【学まちサミットでの発表】

2018年12月に開催された学まちサミットにて取り組み事例の発表及びポスターセッションを行いました。

自分たちの活動をプレゼンテーションする経験を積むことや他校の取り組みを知り刺激を受けることのできる貴重な機会となりました。



大谷大学では、従前より短期大学部幼児教育保育科を中心に北区等と連携し、大学施設なども活用して地域の子育て支援の取り組みを進めてきました。

2016年の夏に(公財)大学コンソーシアム京都及び京都市による大学における地域連携事業のカリキュラムとの連動及び全学化を補助事業「学まち連携大学促進事業」の公募があり、「北区・北大路を中心とした大学・地域連携事業」として申請しましたところ、採択されました。

この支援を追い風に「北区・北大路地域を中心とした大学・地域連携事業」として、大学の位置する烏丸北大路地域において、地域住民やNPO、地元企業、商店等の事業組織と大学が連携し、宗教や歴史、国際文化、教育、保育、情報メディアなど、様々な専門性を有する学生、教員が子育て支援や、地域情報の発信などをテーマに、地域の魅力をさらに高めるような取り組み、あるいは地域の課題を解決、改善するような取り組みへ参画することを目指しています。学生・教職員にとって、学び暮らす街である烏丸北大路エリアにこれらの活動を通じて、①研究成果の社会還元、②実践活動を通じた学生の学びの充実、③地域貢献が両立・実現できるよう、取り組んでいきます。

## 【プロジェクト活動の推進】

2018年度は、主にコミュニティメディアプロジェクト、祇園祭ごみゼロ大作戦プロジェクト、聞き取りを通じた多世代交流と社会調査プロジェクト、子ども・子育て支援プロジェクトなどを展開しました。各プロジェクトの成果は、プロジェクト別のページをご覧ください。

## 【活動環境の整備】

加えて、地域連携プロジェクトへの入門的な位置づけとなる「伝記」、「フィールドワーク」といった授業のサポートとして、学外活動がスムーズに行える環境整備を重点的に進めました。具体的には、学外調査等で使用する機器類の充足、メンテナンスを行いました。

また、学外活動時に事故や負傷等が発生した際の緊急連絡体制を整備するなど、リスク対策にも取り組みました。

 コミュニティメディアプロジェクトの報告はp.6へ

 祇園祭ごみゼロ大作戦プロジェクトの報告はp.12へ

 聞き取りを通じた多世代交流と社会調査プロジェクトの報告はp.14へ

 子ども・子育てプロジェクトの報告はp.16へ

# パブリシティ実績

2018年度もたくさんのメディアで地域連携プロジェクトやプロジェクト参加学生を取り上げていただきました。

## テレビ

NHK(2018.07.11放送)

「京都・祇園祭“ごみゼロ”大作戦！」

「ニュース630 京いちにち」にて祇園祭ごみゼロ大作戦が紹介されました。祇園祭ごみゼロ大作戦プロジェクトに参加している本学学生も取材を受けました。



eo光ケーブルテレビ(2018.08.30放送)

ゲツ→キンニュース

「わたしの盆踊りエピソード写真展」

「ゲツ→キン」にて、「わたしの盆踊りエピソード写真展」が紹介されました。この写真展は、聞き取りを通じた多世代交流と社会調査プロジェクトと京都市左京西部いきいき市民活動センターが共同制作によるものです。



J:COMチャンネル(2019.02.28放送)

デイリーニュース京都

「デイリーニュース京都」にて、2月23、24日に大谷大学で開催された「北区こどものまち」について取材があり、当日の様子が放映されました。準備から当日まで教育・心理学科及び社会学科の学生と教員が子どもたちのサポートとして参加しました。



## 新聞

読売新聞(2018.11.30掲載)

大谷大生ラジオ公開放送 3年目記念  
門川市長らと対談

読売新聞にて、大谷大学で行ったRADIO mix KYOTOの公開生放送について記事が掲載されました。コミュニティメディアプロジェクトに参加する学生が取材を受けました。



麻雀新聞(2018.12.10掲載)

健康マージャンが参加する社会貢献・地域貢献の最良のカタチがここに!

京都府が取り組むソリデールのPR活動の一環として、大谷大学学園祭(紫明祭)にてブース出展されました。高齢者との交流として健康麻雀を実施しました。



読売新聞(2019.03.04掲載)

仮想の街で働き仕組みを学ぶ

読売新聞にて、2月23、24日に大谷大学で開催された「北区こどものまち」について取材があり、当日の様子が放映されました。準備から当日まで教育・心理学科及び社会学科の学生と教員が子どもたちのサポートとして参加しました。



## Web

区長の日記(2018.08.02掲載)

大谷大学の皆さんに、伝記を作っていました!

社会学部コミュニティデザイン学科1年が取り組んだ「伝記」について、インタビューにご協力いただいた北区長が区長の日記にてご紹介いただきました。



# 情報発信

地域連携室や地域連携プロジェクトの日々の活動の様子を発信しています。

## 大谷大学オフィシャルWebサイト 地域連携室(コミュ・ラボ)



地域連携室及び地域連携プロジェクトに関する基本情報をご覧いただけます。また、「大谷大学地域連携室事業報告書」のバックナンバーもダウンロードできます。



## コミュニティメディアプロジェクト

◆コミュニティラジオ番組「大谷大学ハッピーアワー」

FM87.0Mhz 毎週19時~放送中です。聴取エリア、聴取方法の詳細はRADIO mix KYOTOのWebサイトをご参照ください。放送に合わせて、「大谷大学ハッピーアワー」オフィシャルFacebook及びTwitterでも情報発信中です。

RADIO mix KYOTOの番組ページから「大谷大学ハッピーアワー」のバックナンバーをお聞きいただけます。お聞きになりたい放送日のタイトルを選択し、開いたページから「MP3」を再生してください。



大谷大学ハッピーアワー 検索



◆Webサイト・フリーペーパー「キタキタ!」

キタ区キタ大路のリトルプレスとして、ステキなお店、地域イベントなどを取材・紹介しています。Webサイトはスマホに対応しています。烏丸北大路へお出かけの際はぜひご活用ください。フリーペーパー「キタキタ!」は、大谷大学響流館1階地域連携室にて配布しているほか、北区役所、大垣書店本店などでも配布しています。その他配布場所はWebサイト「キタキタ!」にてご確認ください。配布にご協力いただける方を募集中です。ご協力いただける方は、地域連携室までご連絡いただけますよう、お願いします。

大谷大学 キタキタ 検索



## 大谷大学地域連携室オフィシャル Facebook



地域連携プロジェクトの日々の活動の様子や地域連携室主催事業のお知らせなどを発信しています。



## お問合せ

◆本報告書に掲載するプロジェクトに関することや地域連携に関するご相談などについて

大谷大学響流館1階 大谷大学地域連携室

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学響流館1階

Tel:075-411-8015 Fax:075-411-8162

mail:commu-labo@otani.ac.jp

開室時間 月曜日~金曜日 9時~11時30分/12時30分~17時  
\*事務休止日を除く

◆ボランティア募集の学内掲示に関するご相談について

大谷大学慶聞館1階 大谷大学学生支援課

Tel:075-411-8119

開室時間 月曜日~金曜日 9時~13時/14時~17時  
\*事務休止日を除く

ボランティアの内容、実施期間などによって、掲示をお断りする場合があります。

